• ASHIYA HOSPITAL PRESS •　2026.1

HOPE plus

[市立芦屋病院だより]

事業管理者　新年のご挨拶

事業管理者　南（みなみ）　正人（まさと）

新年、あけましておめでとうございます。皆さまにとって佳き一年であることをお祈り申し上げます。

昨年は、大阪・関西万博が日を追うごとに人を集めました。今年は2月にミラノ・コルティナ2026冬季オリンピック、3月に2026 ワールド・ベースボール・クラシック、6−7月にFIFAワールドカップ2026が開催されるなど、スポーツ行事が盛り上がりを見せそうです。願わくは引き続くようにしてプロ野球も、地元の球団を中心として追いつ追われつの接戦で夢中にさせてほしいものです。

さて、今年の干支は丙午（ひのえうま）です。かつて日本には、丙午生まれの女の子は災いを招く、という迷信がありました。実際60年前の丙午の1966年（昭和41年）の出生数は、その前後の180-190万人に比べると136万人と少なかったのです。残念ながら出生数は想定を超えて年々減少し、2024年は70万人を下回りました。今年は過去の迷信にはとらわれず、大きな出生数の減少がないことを祈っています。本来、丙は火や陽を、午は躍動を意味し、丙午は勢いのある年なのです。

昨年は、団塊世代がすべて後期高齢者になるという2025年問題がとりあげられました。さらに、先の2040年に団塊ジュニアがすべて高齢者になり、全人口の35%になること、そして上記の少子化により、それを支える世代が少なくなることが問題となっています。とりわけ、DXに頼り切れない医療・介護はそれにむけての対応をとってゆかねばなりません。

現在、人件費、材料費、エネルギー費の高騰に対して、診療報酬がそれに見合っていないことなどを背景に、医療機関は厳しい経営を強いられています。今年の6月に予定されている診療報酬改定は、現状の窮地の手当てとなる施策が期待されますが、長期の視点で見ると、上記の少子高齢化における医療・介護にむけてのさらなる制度整備を目指したものになると思われます。

近隣では、7月に兵庫県立西宮総合医療センター（仮称）が開院予定、9月に兵庫医科大学病院の新棟が完成と医療事情にも変化があります。その中で当院も時勢に柔軟に、そして昨年の病院機能評価での好評価にも自信と誇りを持ちながら、地域で必要とされる、なくてはならない病院として職員一丸となって歩み続けたいと思います。ご同伴、ご支援をお願い申し上げます。

血液内科、腫瘍内科のご紹介

血液・腫瘍内科 部長 安見（やすみ） 正人（まさと）

右下：水木病院長　左下：安見部長
左上：大西医長　　右上：高橋医師

芦屋市の病気での死亡原因の一位は、悪性新生物(がん)です。ほぼ三分の一を占めており、ご家族やご自身の問題として、がんと関わる事は非常に多くなっています。

がん治療の三つの柱として「手術」「放射線治療」「化学療法」があり、がんの種類や進行度などにより、これらを単独あるいは組み合わせて治療していきます。

当科では、全身的な薬物療法である化学療法を行っています。

また、心と体の痛みを和らげる「緩和ケア」についても、こうした治療と並行し、早期から取り組むことが重要とされており、院内のサポーティブケアチームや緩和ケア内科医と連携し診療にあたっています。

がんの薬物療法は、従来からある殺細胞性抗がん剤に加え、分子標的薬や免疫療法など新しい仕組みで作用する薬が多数登場しています。2001年に慢性骨髄性白血病に対し、分子標的薬である「イマチニブ」が、また同じ年に悪性リンパ腫に対し抗体薬(免疫療法)である「リツキシマブ」が国内で初めて承認されました。この20年で200種類近くの分子標的薬・免疫療法の薬が承認され薬物療法が進歩しています。

当院の血液内科、腫瘍内科では、白血病・多発性骨髄腫・悪性リンパ腫などの血液がんについては、殺細胞性抗がん剤、分子標的薬、免疫療法(抗体薬、二重特異性抗体薬)、自家末梢血幹細胞移植などを用いた治療を行っています。同種移植など高度な治療が必要な患者さんについては、大学病院などの施設と連携をとっています。

また、血液領域では貧血・血小板減少症など血液疾患全般に対応しています。

固形がんについては、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、婦人科など外科系の先生や消化器内科の先生と協力し、胃がん、大腸がん、乳がん、卵巣がんなどで対象となる患者さんには、化学療法や免疫療法(免疫チェックポイント阻害剤)も積極的に行っています。

2026年1月現在、水木満佐央病院長をはじめ、4名の常勤医と1名の後期研修医が在籍しており、3名が日本血液学会血液専門医(指導医2名)、2名が日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医の資格を有しています。

ミキシングの様子

外来化学療法室に安全キャビネットを設置し、
薬剤師が清潔な環境で抗がん剤の調整を行っています。

皮膚科のご紹介

皮膚科　権（ごん） 順華（じゅんか）

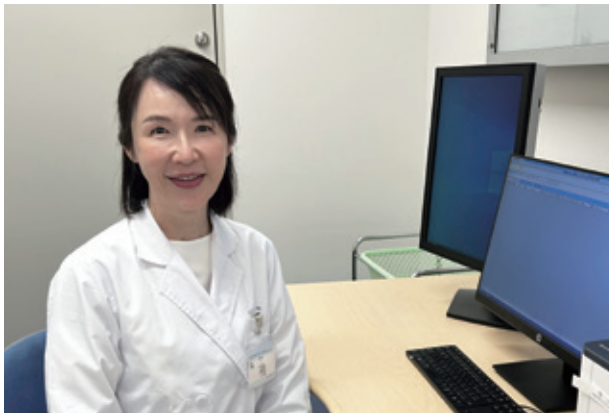
市立芦屋病院の皮膚科は皮膚科専門医が診療しています。

皮膚科外来は、月曜日は藤原作平先生、水曜日は山西清文先生、木曜日は権が担当しています。

赤ちゃんからご高齢の方まで、あらゆる年代の方の皮膚トラブルに幅広く対応しています。湿疹、かゆみ、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、にきびなどの身近な一般皮膚疾患から、感染症、炎症性皮膚疾患まで様々な皮膚疾患を診療しています。帯状疱疹や蜂窩織炎などの感染症は、特に高齢者で重症化しやすく、必要に応じて外科や内科と連携し入院治療も行っています。アトピー性皮膚炎についても中等症以上は新しい治療も取り入れています。

治りにくい皮膚の症状は、内臓疾患や生活習慣などと関係していることもあります。市立芦屋病院では血液検査、細菌培養検査、エコー検査、放射線やMRIなどの検査が院内でできるので、他の診療科とも連携し皮膚疾患を診療しています。

また、神戸大学医学部附属病院、兵庫医科大学病院などの大学病院や地域の開業医の先生方とも密に連携し、通院の利便性を考慮したり、より専門的な検査や治療が必要な場合にはスムーズに対応できる体制を整えております。



地域の皆さんに信頼される皮膚の専門医として、患者さんに寄り添い、安心して相談できる診療を心がけております。どうぞお気軽にご相談ください。

さて季節柄、皮膚が乾燥している患者さんを多く診るようになりました。皮膚の乾燥はかゆみを生じます。かゆみが出ると保湿だけでは治らないこともあり、皮膚を掻いて傷になります。特にご高齢の方は皮膚が薄くなっており、ちょっとした刺激でびらんや皮膚潰瘍を生じます。細菌感染する可能性もあります。年代にかかわらず、乾燥する季節は保湿が大切です。

皮膚・排泄ケア認定看護師のご紹介

皮膚・排泄ケア認定看護師　荒木（あらき） 緑（みどり）

皮膚・排泄ケア認定看護師は褥瘡（床ずれ）やその他慢性創傷、ストーマ（人工肛門）、おむつかぶれなど、皮膚と排泄に関するケアを専門とする看護師です。

当院には皮膚・排泄ケア認定看護師が2名在籍しており、2人で情報共有を行いながら、入院・外来患者さんの対応をしています。

入院中の褥瘡患者さんに対しては、多職種で構成された褥瘡チームで週1回褥瘡回診を行っており、患者さんの背景をふまえた適切なケアが行えるよう、それぞれの専門分野の視点で話し合っています。

また、院内のスタッフからの相談にも対応しており、ケア方法を一緒に考え、統一したケアが行えるよう関わっています。

外来では、褥瘡や傷の適切なケア方法や予防対策を検討し、アドバイスを行っています。

ストーマ外来では、患者さんの困りごとをお聞きし、ケア方法や対策を考え、安心して生活が送れるように支援しています。

地域の訪問看護師や施設スタッフからの電話やメールでの相談にも対応しており、退院後も適切なケアが行えるよう情報を共有しています。

褥瘡回診の様子
右…外科 松本医長
左…皮膚・排泄ケア認定看護師 荒木看護師

病院機能評価（3rd.G:Ver3.0）認定されました！

当院は8月28日、29日の2日間「病院機能評価（3rd.G:Ver3.0）」を受審し、このたび認定されました。「病院機能評価」は、日本医療機能評価機構が第３者の立場で病院組織全体の運営管理、提供される医療について評価を行うもので、質の高い医療を提供するための効果的な取り組みとして、多くの医療機関が受審しています。当院は、平成22年８月に日本医療機能評価機構から初回認定をいただき、今回が4回目の認定となりました。

受審の約1年前から準備を開始し、他職種で構成されるプロジェクトチームを立ち上げ、現状把握から各種規程の見直しやマニュアルの点検、整備など様々な改善活動を行いました。

受審当日は、各専門領域「診療管理、看護管理、事務管理、副機能（緩和）管理」を有する評価調査者４名が中立性、公平性を保持しながら審査を行います。各部門の責任者への面接調査や病棟へのラウンドの実施、療養環境の確認やナースステーション内の管理体制の点検、患者さんの診療録を確認しながら一連の医療サービスについて確認するケアプロセス調査、各部署訪問など88項目にわたる評価項目について、様々な方法により評価が行われました。最終日には評価調査者からの講評もあり、改善に向けた意見交換なども行われ「病院機能評価」の受審は終了しました。

しかし、取り組みはまだまだ続きます。いただいた指摘やアドバイス、審査結果をもとに、さらなる改善活動に取り組んでまいります。

2025年度 芦屋病院公開講座

●時間：午後2時～3時30分　●定員：90人　●受講料：無料

日　時	場　所	内　容	講　師
2026年 1月10日（土）	芦屋市民センター401室	膵臓の病気について	消化器内科　中水流 正一 医師
2026年 2月14日（土）		「がん」ってどんな病気 -がんの基礎知識-	血液内科、腫瘍内科　水木 満佐央 医師
2026年 3月14日（土）		変形性膝関節症の治療	整形外科　名和　厳 医師

お問い合わせ先／芦屋市立公民館 〒659-0068 芦屋市業平町8-24（Tel.0797-35-0700・Fax.0797-31-4998）

ねっと版糖尿病教室のお知らせ

糖尿病療養について
【ねっと版糖尿病教室】を情報発信しております。

詳しくは右記二次元コードまたは
URLへアクセスしてください。閲覧自由です。

www.ashiya-hosp.com/kyoushitsu/tounyou.html

マイナ保険証か資格確認書で受診してください

令和7年12月2日以降は、原則、マイナ保険証を持っている方は「マイナ保険証」、持っていない方は「資格確認書」で受診してください。気づかずに有効期限が切れた保険証をお持ちいただいた場合、令和8年3月末までは、オンライン資格確認システムで資格情報が確認できれば、保険診療を受けることができます。

◉詳しくは医事課までお問い合わせください。

市立芦屋病院 ご案内

交通案内

JR芦屋駅から
- タクシー　約5分
- バス　2番のりば　約15分
- 徒歩　約30分

阪急芦屋川駅から
- タクシー　約5分
- バス　2番のりば　約20分　4番のりば　約15分　※但し15時台まで
- 徒歩　約35分

※病院ネットワークバスもご利用ください　無料

市立芦屋病院の理念

〈病院理念〉
あい（愛）・しあわせ（幸福）・やさしさ（優しさ）

〈基本理念〉
芦屋市の中核病院として　地域社会に貢献します
患者の意思を尊重し　最善の医療と癒しを提供します

日本医療機能評価機構 認定施設（3rd G：Ver. 2. 0 一般病院2）
市立芦屋病院
〒659-8502 芦屋市朝日ケ丘町39-1
TEL：0797-31-2156　FAX：0797-22-8822
HP：https://www.ashiya-hosp.com/

編集・発行　広報推進委員会